

A. 生産管理	原価管理とコストダウン
原価管理	

コースのねらい	低コスト化と生産性向上を目指して、原価管理をコスト(費用削減)と生産性(業務効率向上)の2軸で捉え、企業収益向上のポイントを習得する。
---------	---

	「基本項目」	「主な内容」	訓練時間(H)
講義内容	1 原価管理とは	(1)原価管理の基礎知識 原価管理とは、原価管理の目的、原価とは、原価の種類とは、といった項目を確認し、原価管理の必要性や原価管理の基本的な内容を理解してもらいます。 (2)原価を構成する要素 原価は大きく分けると、材料費・労務費・経費に分けられます。さらに、それぞれは、直接費・間接費に分けられます。原価計算を行なう場合には、これらの内容をきちんと把握しておく必要があります。さらに、ここでは、原価計算の目的、種類、原価計算に必要な情報についても確認します。 (3)損益分岐点 損益分岐点、損益分岐点分析について確認します。損益分岐点分析ができるようになると、企業全体だけでなく各部署、商品別等のコスト構造の把握が可能になります。 【演習】損益分岐点の計算演習 (4)財務諸表とその読み方 財務諸表、特に損益計算書と原価には密接な関係があります。ここでは、財務諸表の読み方と、売上原価の算出方法までを確認し、仕入から最終的な原価算出までの流れを理解してもらいます。 【演習】決算書分析	0.25 0.25 1.00 0.50
	2 コスト削減	(1)コスト削減の着眼点 コスト削減に取組む際の大事なポイントとして、コストs買う減の目的、意義、重要性を理解してもらいます。また、コスト削減活動の方法や、コスト削減への取組みにおける留意点についても確認します。 (2)コスト削減のための発注改善 在庫管理を徹底すること、発注のタイミング・量を管理することで、コスト削減が図れることを学びます。 (3)職場の物理的ムダの改善 ここでは、7つのムダといわれる「不良、動作、在庫、つくりすぎ、加工、運搬、手持ち」のムダとそれらを減らす方法について確認します。 【演習】グループワーク(職場におけるムダの抽出・共有)	0.25 0.25 1.00
	3 IE手法による標準時間設定方法	(1)IE(Industrial Engineering)とは IE手法の内容、ECRSの原則、動作経済の原則について確認します。特に、次項で学ぶ標準時間に関する部分を中心にIE手法の内容を理解してもらいます。 (2)標準時間の設定方法 標準時間は生産活動を見える化する物差しです。生産性や収益性をさらに向上させるには、標準時間を設定し、活用することが必要です。ここでは、標準時間の設定手法を理解し、設定できるようにしてもらいます。 【演習】基幹システムのデータを用い、標準時間と実測時間の比較を行ない、次項以降の資料とします。 (3)統計的時間資料の考え方 各工程で標準時間を定めることにより、実測時間との差異が発生した場合、その原因を分析し、課題を抽出することで、改善活動が促進されることを学びます。 (4)余裕率の設定方法 標準時間を設定する際は、「ゆとり」としての余裕時間を設定する必要があります。ここでは、この「ゆとり」として扱うべき余裕の概念について学びます。	0.50 1.00 0.50 0.50
		合計時間	6.00

カリキュラム作成のポイント
カリキュラムの作成に当たっては、会社の課題やその真の原因等を踏まえ、訓練カリキュラムが実践的に理解・習得できるよう、討議・演習の時間を活用し、アウトプットを重視するカリキュラムとした。なお、訓練利用事業主が決定次第、ヒアリングを通して、事業主の企業にスポットを当てたカリキュラムに再構築していく。

受講生の持ち物
電卓